

巨大パネルに込めた思い



長い間、新型コロナウイルスの影響で仲間と関わる活動が制限されてきました。そこで、生徒会では、学校が一つになれる企画として巨大パネルの制作を企画しました。図案を二十四分割し、全校生徒と先生方の縦割り班で分担して完成させました。

みんなで協力して製作した巨大パネルの図案には、現在、過去、未来の3つの思いが込められています。基本はごらんのように、屏風絵などで好んで使われる「竜虎図」をです。

竜のいるところに雲が沸き、虎のいるところに風が吹き、二つの英雄が互いに引きつけ合い戦う勇ましい姿と、現在私たちが、体育祭で青軍・赤軍に分かれて戦う様子を重ね合わせています。「応援」「競技」「パネル」の三つの賞と「総合優勝」を狙う竜と虎が体育祭を鼓舞します。

次は過去への思いです。この絵は私たちの祖先の偉業に対する敬意を表しています。度重なる水害や飢饉に苦しめられてきたこの地区を、豊かな水田に生まれ変わらせ、ふるさとの礎を築いた偉大なる祖先たち。大自然の力と災害を克服する人々の情念に対する感謝と敬意を表しています。

そして未来です、令和七年度、紫雲寺中学校区の三つの小学校が統合します。『出身小学校が無くなってしまう』と思うと寂しく感じられます。しかし、『新しく大きく生まれ変わる』と前向きにとらえ、三つの小さな光が大きな一つの光に変わっていかうとしている様子を表しています。その願いを込め、この図の中には米子、藤塚、紫雲寺の三つの小学校と中学校の校章の一部がモチーフとして埋め込まれています。

さて、みなさん。この巨大パネルをしばらくの間体育館に展示したいと思います。うれしいとき、悲しいとき、楽しいとき、苦しいとき、この巨大パネルを見て仲間とともに活動できることの喜びと感謝の気持ちを思い出し、がんばっていきましょう。